

## OB紹介



広島テレビ放送株式会社  
報道制作局報道制作部  
スポーツディレクター 高橋優紀さん  
(平成15年度入学)

「仕事内容を教えて下さい。」

最初は報道部に配属されていました。事件などのニュースを、記者としてレポートしていましたね。それから巡り合せとタイミングで、たまたま元気丸に配属されました。

元気丸では、ニュースZEROに、カープの試合を編集して送る仕事をしていま

す。プロ野球にはホームゲームとビジターゲーム（アウェー）があつて、ホームゲームのときは広島テレビが編集の担当となります。詳しくは、事前撮影、試合撮影をして、原稿をまとめてニュースにする、ということです。

例えばナイターゲームの場合、昼頃に選手データのチェックをします。それからカメラマンとアシスタントとで球場へ行き、一、二軍の入れ替えのある選手を撮影します。それから試合を撮影して、35秒から40秒に編集して、中央（ニュースZERO）に送ります。

映像を編集するときは、編集マン（実際に映像を編集する人）に、どのような映像にするかの大きな全体像を伝えます。一分の映像を作るのに、一時間かかると言われているので、一時間番組を作ろうと思ったら、作業の時間も入れて60時間かかるといわれていますね。

「仕事の魅力を教えて下さい。」

実は、最初は全然面白くなかったんです。特に入社一年目が辛くて、早く一人前になるためにたくさん怒られたし、時間に追われていました。仕事に対する姿勢や取り組み方が甘すぎた、という一面もあります。それでも注意をきちんと受け止めて、自分の悪い所を変えていけたからこそ、今の自分がいると思っています。一般的な仕事ですが、特にテレビの仕事は分単位、秒単位で進んでいくので、いつも時間を気にする癖がつきました。

また、今の仕事になって、選手と近くで話せて、好きな野球の仕事に携われている、と感じてからは面白いですね。

仕事の八割五分はしんどいけど、残りの一割五分は楽しいです。その一割五分の楽しさがあるからこそ、今の仕事を続けていけるのだと思います。

「一日のスケジュールを教えてください。」

生活リズムは不規則で、今は特別忙しいです。元気丸は当日編集して、当日の22時56分に放送しています。

忙しいときのスケジュールは、朝7時に出社して編集の準備をします。そして午後1時くらいから編集に取り掛かって、テロップをつけたり、ナレーションを付けたりして、当日の生放送へと臨みます。

番組が終わってから、解説者の人たちと反省会をして、そのあとに自分たちだけの反省会もするので、それが終わるのが大体午前1時ですね。そこから片づけをして帰宅すると、大体午前2時半くらいになって、就寝するのが午前3時くらいになります。

学生でわいわい騒いで3時になると、仕事やっとなって3時になるのでは全然違うから、けっこうしんどいです。で

も、野球をやっていたから体調を崩すことはありません。休みも、週に一、二回あるときもあれば、一か月丸々ないときもありますし、お正月も高校サッカー選手権の取材があつて、正月は休みがなかったです。

「今後の仕事の目標を教えてください。」

目標とされる人になること、が目標ですね。十台のカメラが同時に動いていく中で、実況の声も聴きながら最適なカメラをチョイスして、中継することができると人を見たときに、自分にはとてもまねできない、と思いました。

今では、少しずつですが、できるようになっているので、いずれはそういう人になりたいですね。

「大学生活を教えてください。」

大学時代の思い出は部活動です。高校生の時、少林寺拳法で全国大会も出たんだけど、自分が大学に入る一年前に広島大学が神宮球場（全国大会）に出場していて、大学生になったら本格的な部活に入ろうと思って、硬式野球部に入部しました。入部当初は続けていこうか迷ったけど、高いお金を出して野球道具一式を購入したし、一度やったことは途中でやめたくなかったから、最後まで続けましたね。

おかげでやり遂げるということが自信になって、野球を通じて体力的にも精神的にも鍛えられました。このことは就職活動にも役立ちました。「大学生活で一番取り組んだことはなんですか？」という質問に対して、迷うことなく「野球」ということができました。ほかに、今の職業にも間接的に関わっているし、今で

も付き合いがある友達を得ることができたのは大きかったです。

「専攻内容を教えて下さい。」

入学する前は、漠然とだけけど、スポーツに関係することがやりたかったです。そこで、学科の名前にスポーツと書いてある学科が総合科学部にあったので、受験を決めました。

また、4年生の時は、人間科学プログラム（現スポーツ科学プログラム）で運動生理学の体温調節について研究していました。長谷川先生の研究室に所属していたんですが、部活動や就職についてもよく面倒を見てくれる、とても愛情ある先生でした。もし、先生のゼミに入っていなかったら、今の自分はなかったかもしれないです。

「総科生への一言をお願いします。」

社会人とはある意味、牢獄です。ですから、仕事をしていると、服役中、という気持ちになってしまいます。それとは違って、学生時代は執行猶予期間、ってところでしょいか。

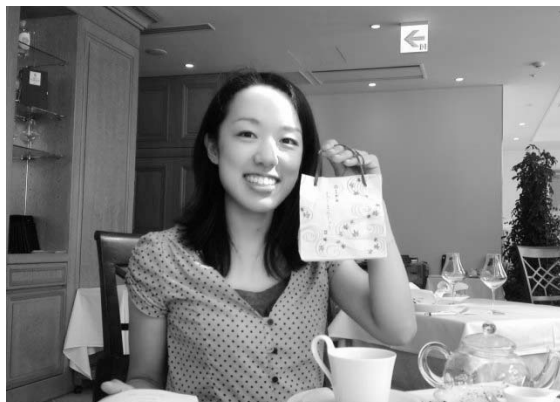
そしてやっぱり、コミュニケーション能力は大切です。それと、いろんなことにアンテナを張る意識と力です。あとは向上心も。これらは、仕事をしていく中で求められるものなので、在学中から意識していても良いと思います。

【担当】 23生 金子 久誉

23生 立川 茜



## OG紹介



ネスレ日本株式会社  
福岡支店営業一課アカウントセールス  
鹿瀬島尚子さん（平成17年度入学）

### 「仕事内容を教えてください。」

私の仕事はメーカーの営業です。会社はネスレ日本という会社なので、扱っている商品は主に食品、コーヒー、チョコレートです。他にも、たぶん知らない人も多いと思うのですが、お水、調味料、医療用の食品などを扱っている部署もあり、その中でも私は、ペットフードを扱う部署にいます。物を売ることが仕事なのですが、私が一軒一軒物を売って回っ

ているわけではなく、店のバイヤー、あるいは問屋さんのところに行って、打ち合わせをしたり、バイヤーにうちの商品をたくさん買ってもらえるように交渉したりします。よって、新規のお客さんを開拓したりするなどの仕事は基本的ではありません。

営業の仕事は売上を上げること。極端なことを言うと、人を増やしたかったら会社が儲からないといけないんですね。会社が儲からない場合は人を減らすことも一つの方法として考えなければならぬ。お金が回らないと会社が回らないので、いかに自分の持っているお客さんの中で、「いつも売っている量よりも、うちの商品を買ってもらおうか」ということを考えながら仕事をしています。

### 「今の仕事を選んだ理由を教えてください。」

あまり参考にしてほしくないということとを前提に聞いてくださいね。

就活をする際に様々な会社を受けました。たとえば製薬会社も受けたし、九州のインフラなども。でも、何を基準にし

て選んだらいいのかがわからなかったんです。お給料で選んだらいいのか、仕事がかどうか、あとは福利厚生はどうですかなどの基準があつて、皆ほかの人たちはそのようなことを気にしていたけれど。だから面接に行つて、この人たちと働いたら楽しそうだな、と思うところになりました。と途中から考えるようになりました。

仕事をしていたら、絶対にお金ももらつてするわけだから、大変なことが絶対にある。会社やお客さんから無理を言われることや、その時は想像でしかなかったけれど、私の知らない大変なことが絶対待っていると思っていました。そういうとき、どうしよう、と思つても、会社からけなされたりせずに、「何とか頑張ろう」と思えるような所にしようかなつて思いました。

ネスレの場合は、選考の途中で、いろんな部署の先輩、工場、営業、マーケティング、財務の人といった社員の方の話を聞く機会があり、仕事の内容はよく分かんなくなつたけど、皆楽しそうにやっているなど直に感じたので今の会社になります。



「仕事で気を付けている」とは  
ありますか?」

スーパーやディスカウントストアなどのお店に行った時、お店中を気にするようになりました。以前は、自分の興味のあるものがどれくらい値段で売っているかどうかを見ていたと思うのですが、いまは自分の所の商品と量や値段、中身が似たような商品の値段を見て、「あーまずいなー」と思ったり。

私はキャットフードを売っているのですが、スーパーでペットフードを買うことは中々ないけど棚はありますよね。お店によって、いつ行ってもお客さんが多いお店と、そうでもないお店があります。その中で「何が違うんだろう?」「どこに物を置いたら売れるだろう」など思っていました。

あとは、うちの会社は何処でも色々なところで物を売ってもらいたいわけだから、どこかの店舗で勝手にすごく安く売られるとほかのお店との兼ね合いもあってすごく迷惑になるんです。

だから、お店を見に行った時に、うちの商品じゃなくても、他のお店が洗剤や

ティッシュなどを表にすごく安く売ったりすると、「あーメーカーの人可哀想だな」って思っちゃいますね。

「1日のスケジュールを  
教えてください。」

付く上司によって違うと思うのですが、営業の仕事は基本的に外なので、まず会社に行って、その日に使う資料などを前日ないし当日の朝準備し、お客さんの所に向かいます。

実際に商談をした後、私はお店を直接見に行くことが多いですね。商談通りに本当にやってくれているかなって。そこで「約束が違うじゃないですか」と指摘しなければならなかったり、「こうしたら、もっと売り上げが上がるのに」といったこと、たとえば「コーヒーのガムシロップを普通の売り場に置くのも良いけど、牛乳の所に置くと売れるかな」などを実際にお店を見ながらを考えたりします。

商談から帰ってきたら、何をどれだけ売って、お金をどのくらい使いましたなどといった報告を、パソコンにデータと

して入力します。ちなみに、これらにも締切が全部あります。だから、帰ってきただけから普通に2、3時間はそういう仕事をしたのち退社です。

デスクワークも多いし、運転も電話もすごくしますね。

「専攻内容(情報行動科学プログラム)について教えてください。」

私がこのプログラムを選んだ理由は、教養の授業で受講した、心理の授業がとても面白かったことがきっかけです。人の心が数字で表せることにとても感銘を受けました。

私は心理のコースにいたので、入戸野先生の研究室に三年生の夏くらいからお世話になっていました。

実験では、たくさん被験者を連れてきて、その人達にひたすらテトリスを一生懸命やってもらい、その時に難易度や時間を変えたりしながら、どのくらい集中しているかっていうのを、体の指標、心拍とか脳波とか眼球運動、手の汗などを色々測ったりして研究する研究室でした。

十人の人に「あの人今どんな感情だと思おう？」って聞いても、たぶんみんな違うから、そういう感情を数字で表せませんかね、っていうのがこの研究室でザックリやっていたことです。また、実験の被験者として参加したりすることもありました。

「学生生活で楽しかったことや、やっておけばよかったと思うことはありますか？」

楽しかったことといえば、たくさん旅行に行ったことかな。特に二年生の時に外国に行くプログラムなどに参加したことは楽しかったです。

私は、その時だけかと一緒に行こうなどではなく一人で参加したのですが、そこで仲良くなった友達と今でも連絡とって、何ヶ月かに一回急に電話がかかって来て食事に行ったりなどして仲良くしています。

やっぱりいつもと全然違う生活をしたことが楽しかったし、あとはもともと知らない子たちと、日本語が通じない環境の中で仲間意識が芽生えて仲良くなった

というのが楽しかったですね。

逆にやっておけばよかったかなと思うのは、サークルです。アルバイトは様々な仕事をたくさんしたのですが、サークルをやっていた人は、交友関係が広がる面がありますから。

また、飛翔などのインタビューに載っている他のOB・OG紹介でやっておけばよかったと言っていることは、やっておいたほうが良いと思います。

他に就活については、こんな仕事がしたいなと感じたり思ったりしたら、その会社に勤めている先輩を名簿から調べて「お話を聞く時間をください」って言って話を聞くなんていうのも良いと思います。そういうことをしている人は、「この仕事のこういうところが楽しそうだから、こういう仕事がいい」という明確なビジョンを持っています。

つまり前々からコツコツと自分のことを準備しておけば、就活の時にバタバタ、そわそわ焦らなくて済んだと思います。

「総科の学生にメッセージをお願いします！」

仕事を始めて思ったのが、中々自分と違う境遇の人とか、自分と違うことをしている人などに話を聞く機会が減るということです。同じものを売って、同じ手段で生活して、同じことを考えている人とはよく話をするのですが、やっぱり久しぶりに会う友達とか、違う世界の人と話をする時、すぐリフレッシュできたり、元気をもらったりするのでいいと思います。でもそれは大学の時、特に総合科学部では当たり前のようにできる環境なので、学生の時にいろんな自分と違うことをしている人の話を、合わないって思う人も居るかもしれないけど、とりあえず色々な人とお話をして、自分が何をしたいかや、自分が何でこんなことをしているかというのを考える。そんな時間はその時しか取れないと思うので、大事な時間だと思います。あと私が苦労したから就職活動は早めにしたほうがいいかもしれないですね（笑）。

【担当】 23生 西峯 礼子